

Economic Indicators

発表日: 2024年11月20日(水)

貿易統計(2024年10月)

～半導体関連輸出が減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		輸出金額		前年比		アメリカ		前年比		EU		前年比	
				前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比		
23年	10月	▲7,029	▲4,810	1.6	▲12.1	▲3.4	8.8	0.4	▲9.4	▲3.1	0.1	1.4	▲2.3		
	11月	▲7,883	▲5,392	▲0.2	▲11.8	▲5.6	3.4	▲11.8	▲9.9	▲3.4	2.9	0.4	▲3.3		
	12月	589	▲5,504	9.7	▲6.8	2.9	16.9	2.2	2.7	▲3.2	▲5.6	▲13.7	▲0.7		
24年	1月	▲17,665	▲167	11.9	▲9.7	2.3	7.1	▲0.2	20.4	▲8.4	▲3.9	▲22.1	▲9.2		
	2月	▲3,830	▲5,966	7.8	0.6	▲1.5	10.9	3.5	▲7.1	1.4	6.1	▲3.3	12.6		
	3月	3,824	▲6,835	7.3	▲5.1	▲2.1	1.8	▲6.5	0.9	▲9.6	▲2.3	▲1.1	▲19.4		
	4月	▲4,713	▲5,184	8.3	8.4	▲3.2	▲2.3	▲13.7	▲5.1	0.6	16.1	▲1.9	1.8		
	5月	▲12,230	▲5,438	13.5	9.5	▲0.9	6.7	▲17.9	▲0.4	▲2.0	13.0	▲2.7	3.8		
	6月	2,194	▲7,358	5.4	3.3	▲6.2	▲2.9	▲20.1	▲8.9	▲8.9	5.0	▲5.9	▲5.6		
	7月	▲6,343	▲6,436	10.2	16.6	▲5.2	▲5.0	▲13.8	▲10.9	4.4	▲0.7	▲3.0	13.6		
	8月	▲7,092	▲4,872	5.5	2.3	▲2.8	▲7.7	▲12.3	▲4.9	▲3.8	▲6.5	4.8	▲1.7		
	9月	▲2,941	▲2,746	▲1.7	2.1	▲6.9	▲0.3	▲11.2	▲15.1	▲1.4	3.7	▲4.4	▲0.6		
	10月	▲4,612	▲3,577	3.1	0.4	0.1	▲6.1	▲15.8	▲4.3	2.4	2.8	▲7.3	7.7		

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支(季節調整値)は赤字基調が継続

財務省より発表された10月の貿易統計では、輸出金額が前年比+3.1%、輸入金額が同+0.4%となり、貿易収支は▲4,612億円の赤字(事前予想コンセンサス: ▲2,121億円の赤字、当社予想: ▲3,262億円の赤字)となった。季節調整値でみると、輸出金額が前月比▲0.7%(9月: 同+1.9%)と2か月ぶりの減少となる一方、輸入金額が同+0.2%(9月: 同▲0.5%)が小幅ながら3か月ぶりに増加したことで、貿易収支は▲3,577億円の赤字(9月: ▲2,746億円の赤字)となった。先行きについても、国内外の財需要の弱さを反映して輸出、輸入ともに数量が伸び悩み、当面の貿易収支は赤字基調が続くだろう。

○実質輸出は半導体関連が減少

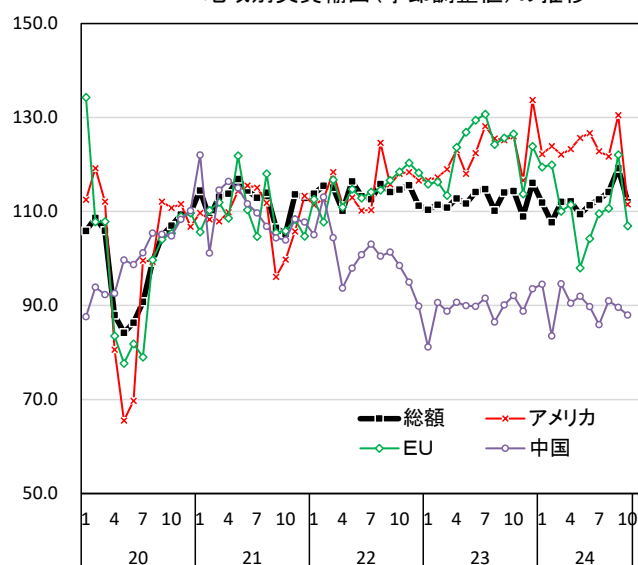
物価変動の影響を除いた実質輸出は前月比▲6.0%(9月: 同+4.4%)と、5か月ぶりの減少となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別には、米国向けが前月比▲14.5%(9月: 同+7.2%)、欧州向けが同▲12.4%(9月: 同+10.3%)、中国向けが同▲1.8%(9月: 同▲1.5%)と、いずれの地域も減少した。

7-9月期は、世界的な半導体関連需要の回復を背景に前期比+3.9%の伸びとなっていたが、10月はこれまでの増加から反動減が出たかたちとなった。品目別には、半導体等電子部品などの電気機器が同▲7.6%(9月: +1.5%)、半導体等製造装置などの一般機械が前月比▲5.2%(9月: +4.5%)とそれぞれ大幅と減少した。もともと、これらはNIESやASEANを中心としたアジア向けで好調だったが、中国を除くアジア向けも10月は同▲3.0%と、5か月ぶりに減少に転じた。

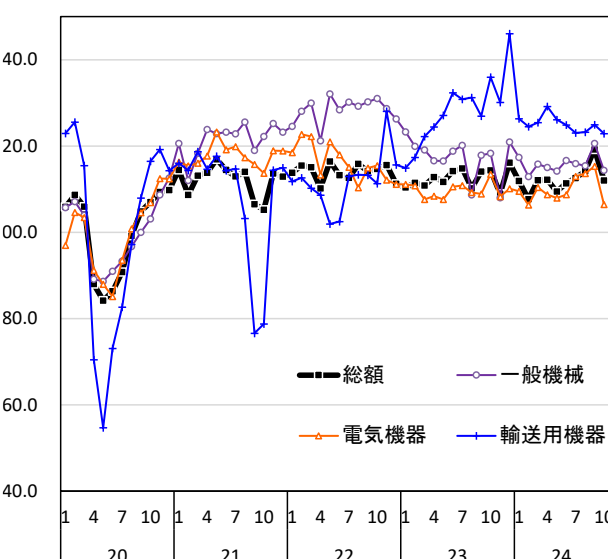
また、主力の輸送用機器も▲1.7%と、7-9月期に前期比▲2.4%と落ち込んだ後も減少が続き、輸出全体の下押しとなった。長期化する不正認証問題の影響だけでなく、自動車輸出のウェイトが大きい米国や欧州での自動車需要の一巡によって弱い動きが続いている。

先行きについて、これまで輸出を下支えしてきた半導体関連（電子機器や一般機械）の生産計画は強いものの、このところ出荷指数や在庫率にも陰りが見えはじめており、先行きは減速する可能性が高い。これに加えて、米国、欧州、中国といった主要相手国の景気減速や自動車需要の一巡によって、実質輸出の下押し圧力は強い。輸出に力強い回復は期待しにくく、牽引役不在の中で停滞感の強い状況が続くだろう。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。